

★学校の教育目標	○自ら学び考え行動しよう ○責任と思いやりの心をもとう ○健全な心と体をつくろう	★重点計画の概要
★目指す学校像（ビジョン）		【学びの変革プロジェクト】 ～主体的な学びと学力向上に向けた指導の個別化の推進～ 主体的な学習態度の育成と指導の個別化を通して、生徒の学力向上を図る。そのために、○実践的な校内研究の実施、○学び合いを取り入れた授業改善、○話し合い活動の充実、○主体的な学びにつながる授業の質的向上と変革に取り組んでいく。
【目指す生徒像】	確かな学力を基盤に、将来の夢に向かって主体的に学び向上しようとする生徒	
【目指す学校像】	確かな学力と社会性及び人権尊重の精神が身に付く学校	
【目指す教師像】	生徒理解に優れ、人権尊重の精神に基づいた教育活動を実践できる教師	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	【学びの変革プロジェクト】 主体的な学びと学力向上に向けた指導の個別化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>「指導の個別化を取り入れた授業づくり」の推進</li> <li>「探究的な学習を活用した深い学びと主体的な学びに取り組む態度」の育成</li> <li>全国学力・学習状況調査の分析と学力向上に向けた授業改善の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研究を充実させ、指導の個別化を取り入れた授業改善を推進する。</li> <li>学習者用端末を活用した探究的な学習活動を展開し、生徒同士の考え方の共有を行う。</li> <li>学び合いや対話を積極的に授業に取り入れ、主体性の育成を図る。</li> <li>全国学力・学習状況調査を分析し、学力向上に向けた質の高い授業づくりを目指す。</li> </ul>	4	90%以上の教員が、計画的、組織的に取組を行った。	4	生徒のアンケートで、90%以上が「主体的に授業や学習に取り組んでいる」と回答した。	生徒は落ち着いて学習に取り組めている。中学に進級すると学習内容が難しくなり、小学校からの基礎が不足している生徒への指導は難しいかも知れないが、苦手な生徒や学力が低い生徒も学習に向き合える授業の工夫をお願いする。生徒の「なぜ」「どうして」を大切にし、より主体的な学びを目指してほしい。	校内研究を中心に、授業改善への意識も高まり、学び合いや対話、探究的な学習を取り入れた授業を展開している。生徒も意欲的に学習に取り組んでいるが、対話やグループでの活動に積極的に関わることができない生徒がいることも事実である。生徒の学習状況や特性を踏まえ、指導の個別化を図るとともに、教員と生徒が一体となって、一人も取り残さない授業を実現する。
				3	80%以上の教員が、計画的、組織的に取組を行った。	3	生徒のアンケートで、80%以上が「主体的に授業や学習に取り組んでいる」と回答した。		
「心の教育」の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権尊重の視点に立った教育活動の実践</li> <li>道徳教育の充実</li> <li>あいさつ運動の推進</li> <li>ボランティア活動の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権尊重の視点に立った教育活動の充実を図ると共に、自他の生命を尊重し、差別・偏見をなくす指導を多面的に行う。</li> <li>人権感覚を高める環境整備（掲示物、作品への配慮）を行う。</li> <li>生徒が生命尊重をはじめとする道徳性を養うために、「考え・議論する」道徳の授業を継続的に実践していく。</li> <li>道徳授業地区公開講座を充実させる。</li> <li>「あいさつとマナーの七生中」の伝統を継承し、日常的なあいさつの励行とあいさつ運動の推進を図る。</li> <li>ボランティア活動を促進し、生徒の心の教育の充実を図る。</li> </ul>	4	90%以上の教員が、計画的、組織的に取組を行った。	4	生徒のアンケートで、90%以上が「自分是人権を尊重して行動している」と回答した。	生徒の「あいさつ」の音が少なく感じている。「あいさつ」は人と人をつなぐ第一歩。不登校や教室にいられなくなってしまう生徒を作らない為にも、クラスや学年、学校全体で「あいさつ」ができる学校づくりをお願いする。先生方から「あいさつ」の充実を図ることで、生徒にも必ず広がっていくと思う。	アンケートの結果では、教員も生徒も高い人権意識をもった行動ができていた。しかし、生徒は友達や小集団での関りが強く、孤立感を抱いている生徒も各学年で見受けられる。「あいさつとマナーの七生中」の伝統を学校全体で再確認し、あいさつが響き渡る学校づくりに力を入れ、互いの声掛けから生徒間のつながりを強めていく。	
			3	80%以上の教員が、計画的、組織的に取組を行った。	3	生徒のアンケートで、80%以上が「自分是人権を尊重して行動している」と回答した。			
みんなの多様な学びとあわせをつくる	特別支援教育と不登校支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に対する適切な支援の提供</li> <li>不登校傾向の生徒への対応と支援の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内委員会を活用し、生徒一人一人にとって効果的な支援の具体策を検討し、実践していく。</li> <li>かしのきシート、個別指導計画を保護者と協力しながら丁寧に作成し、継続した支援を実践していく。</li> <li>ステップ教室、リソースルームの充実により、生徒の学習意欲と自己肯定感を高めていく。</li> <li>欠席が多い生徒に対しては、リソースルーム・ティーチャー、学力向上支援員、家庭と子供の支援員を活用し、別室登校や別室指導を行っていく。</li> </ul>	4	90%以上の教員が、計画的、組織的に取組を行った。	4	生徒のアンケートで、90%以上が「困りごとに対し、学校はしっかり話を聞いて対応してくれている」と回答した。	学校に安心できる場所があることは大切なことである。毎週の校内委員会（情報共有の場）を継続しながらきめ細やかな支援を願う。	校内登校支援教室（学習室）の環境整備や活動の充実を図ること、不登校傾向の生徒の居場所をつくること、また、校内委員会を毎週実施し生徒情報の共有と対応を検討することできめ細やかな支援を行うことができた。引き続き丁寧な支援体制の継続と共に、校内別室支援教室（学習室）の運営の充実を図っていく。
				3	80%以上の教員が、計画的、組織的に取組を行った。	3	生徒のアンケートで、80%以上が「困りごとに対し、学校はしっかり話を聞いて対応してくれている」と回答した。		
人権尊重の視点に基づいた生活指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>自他を認め合い尊重し合う学校風土の形成</li> <li>いじめの未然防止と早期発見、早期対応</li> <li>情報モラル教育の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育を推進し、お互いを尊重し合い、安心して学校生活を送れる学校風土を作る。</li> <li>教職員の人権感覚を向上させ、言葉遣いに気を付けさせる。</li> <li>生徒の言語環境を整え、自他を尊重する精神を培う。</li> <li>「七生中学校いじめ防止基本方針」に基づき、定期的なアンケート実施や、生徒の様子について情報を共有することで、いじめ予防と発生時の迅速な対応を組織的に行う。</li> <li>SNSに使い方について、道徳やセーフティ教室、GIGAワークブックとうきょうを活用し、継続的な指導を行う。</li> </ul>	4	90%以上の教員が、計画的、組織的に取組を行った。	4	生徒のアンケートで、95%以上が「自分はいじめをしていない」と回答した。	いじめられていると感じている生徒に対するケア体制の充実をこれからもお願する。	98.3%の生徒が「いじめをしていない」と回答している。また、年3回のふれあい月間に合わせて生徒アンケートと面談を行うことで、人間関係等で不安のある生徒への支援を行うことができていた。当事者が「いじめ」と認識していないケースも多く、互いの関り方やマナー、人権意識の向上などを図り、いじめの未然防止に努めていく。	
			3	80%以上の教員が、計画的、組織的に取組を行った。	3	生徒のアンケートで、90%以上が「自分はいじめをしていない」と回答した。			
社会と未来に関き、みんなで作る	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自らの力で生き方を選択して能力や態度の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2学年で職場体験を実施する。</li> <li>地域人材及び事業所を活用したキャリア教育を推進する。</li> <li>小中高の12年間を見通したキャリア・パスポートを活用する。</li> </ul>	4	90%以上の教員が、計画的、組織的に取組を行った。	4	生徒のアンケートで、90%以上が「自分の将来について考えるようになった」と回答した。	とても素直な生徒が多いが、指示を待つ傾向があると感じる。自分で考え行動する経験をさせながら、自らの未来に向けて自分事として考えられる生徒の育成をお願する。商工会では、職場体験の受け入れ可能な事業所をまとめている。是非、生徒のキャリア教育の一助にしてほしい。	中学卒業後の進路や将来について具体的に考え取り組んでいる生徒はやや少ない。中学校3年間の成長段階に合わせたキャリア教育の充実を図りながら、生徒が未来像を目指しながら、学習や行事運営に携われるようにする。
				3	80%以上の教員が、計画的、組織的に取組を行った。	3	生徒のアンケートで、80%以上が「自分の将来について考えるようになった」と回答した。		
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者、地域と連携した教育活動の充実</li> <li>地域行事に積極的に参加する態度の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA、七生中育成会、親父会等に協力を得ながら、特別活動や行事の充実を図る。</li> <li>地域人材を活用し、道徳及び総合的な学習の時間の充実を図る。</li> <li>地域行事に積極的に参加する態度を育成し、ボランティア精神や公共心、地域貢献の意識の向上を図る。</li> </ul>	4	70%以上の教員が、具体的な取組に関わった。	4	生徒のアンケートで、70%以上が「学校や地域などのボランティア活動に参加したことがある」と回答した。	コロナで社会が一変した感じが強い。また、働き方改革が休業日における地域行事への関りを難しくしている。地域・学校で生徒が活躍できる場を作っていきたい。	学校と保護者との連携についてはC4thH&Sの活用や電話・家庭訪問等を行い充実を図ることはできているが、地域との連携充実について課題がみられる。地域行事を教育課程と関連付けて計画する工夫を行い、連携充実を図っていく。	
			3	60%以上の教員が、具体的な取組に関わった。	3	生徒のアンケートで、60%以上が「学校や地域などのボランティア活動に参加したことがある」と回答した。			

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。